

モンゴル人が感じる日本人の感謝表現での言語・非言語行動の特徴
 Characteristics of Verbal and Non-Verbal Behavior in Gratitude Expressions of Japanese:
 Through Mongolian native speaker's awareness

S. M. D. T. ランブクピティヤ, 久留米大学
 S. M. D. T. Rambukpitiya, University of Kurume

1. はじめに

外国人が日本語母語話者（以下、JNS）との人間関係を構築し、進展させ、維持するには、感謝の伝達が重要である。三宅（1993）は、「外国人が日本に降り立ったとき真っ先に覚えなければならない基本的語句のひとつ」（p.19）として、その重要性に言及している。

ところで、感謝の言語・非言語行動は暗黙裡の文化規範に沿ってなされることが多い。同じ社会に所属し、同一の行動基準を持つのなら、相手の行動基準と符合する可能性が高い。他方異文化間では、日本語の感謝表現との違いが誤解や失敗を起こす原因の一つになるという指摘もある（奏，2002など）。

2. 先行研究と残された課題

感謝表現の先行研究には、日本語における言語表現のみを扱った研究（佐久間1983、岡本1991など）と、日本語の感謝表現と他言語での感謝表現を言語の範囲内で比較対照した研究（秦2002日・韓、スイリラット2011日・タイ、周2017日・中、ランブクピティヤ2014日・シンハラなど）がある。前者は日本語として感謝を表す表現やその種類、それらの使用場面など、後者は感謝を表す表現やその種類、それらの使用頻度などについて言語間の差異を明らかにしている。

しかしながら両者ともに、感謝の言語表現のみが注目され、非言語行動が看過されていることが注目されよう。そこで、ランブクピティヤ・内藤（2018）は、日本語とシンハラ語を比較対象とし、言語だけでなく非言語も含めて PAC 分析（個人別態度構造分析:Analysis of Personal Attitude Construct）を用い、感謝の言語・非言語行動及びその背後にある文化的スキーマの差異を検討している。その結果、言語と非言語のいずれの側面においても、表現の具体的方法だけでなく、文化スキーマにおいても違いがあることが明らかとなった。ランブクピティヤ・内藤の研究成果は、異文化間コミュニケーションや多文化共生に有用な成果をもたらすものではあるが、スリランカのシンハラ語と日本語の比較にとどまっている。検討や考察の範囲を日本語教育分野に限定するとしても、他の言語との比較に拡張していくことが求められる。

3. 研究目的

本研究では、ランブクピティヤ・内藤（2018）で取り上げられたスリランカのシンハラ語とも日本語とも異質な特徴を持つ言語として、遊牧民としての長い歴史を持つモンゴルのモンゴル語と日本語との差異について検討することを目的とした。具体的には、日本語における感謝の言語・非言語行動の特徴とその背景に

ある文化的スキーマをモンゴル語母語話者の視点から探索し、その結果を通して、異文化理解や多文化共生に必要な提言を検討することにした。

4. 研究方法

4.1 被検者

本調査では、モンゴル語母語話者の男子留学生1名（24歳）を被検者とした。彼は、モンゴルの高校を卒業後日本の日本語学校で1年間日本語を学び、日本のA私立大学の文系学部に通う学部4年生であった。調査時には日本語の学習歴が合計6年で、スーパー・マーケットのアルバイトをしていたが、それ以前にもコンビニでもアルバイトをしていたことから、JNSの感謝行動を観察し、自身でも感謝行動をした経験は豊富であった。

4.2 調査方法

通例のアンケートやインタビューのような研究手法では、話者が無意識に行う言語・非言語行動と、暗黙裡に利用される文化的スキーマを探索するのは困難である。そこで本研究では、ランブクピティヤ・内藤（2018）でも有効性が確認されているPAC分析を用いることとした。

PAC分析は、①テーマに関する連想刺激文の作成、②当該テーマに関連した連想反応の引き出し、③被検者による連想反応項目間の類似度評定、④類似度距離行列を用いてウォード法によるクラスター分析の実施、⑤被検者からクラスターについてのイメージや態度の聴取、⑥調査者による総合的解釈という順に行う。このように、統計分析まで含めて、①～⑥の手順に従うため、PAC分析は単一事例であっても、操作的で客観性の高い研究技法である。また、被検者自身が連想した項目を用いて類似度距離行列を作成・解析し、さらにクラスターのイメージ構造について被検者が報告を行い、最後にそれに基づいて被検者と調査者が対話しながら解明を行う。これは、内藤（1993）が現象学的データ解釈技法と名付けた方法であり、PAC分析を用いた多くの研究で、被検者の内面の潜在的特徴を探索するのに有効であることが支持されている。

〈連想刺激文と手続き〉

本研究では、JNSに見られる感謝の言語・非言語行動及びその際の文化的スキーマをモンゴル語母語話者の視点から把握するために、図1のような刺激文を作成した。調査に関する説明や指示には、学習初心者にもわかりやすい日本語を使用した。

被検者にまず、刺激文を提示し、ゆっくりと丁寧に読んだ後、頭に浮かんできた言葉を、1枚のカードに1文ずつ記入させた。次に、それらのカードを重要度順に並べ替えさせ、番号を付けてもらい、項目間の類似度を7段階（1.非常に近い、2.かなり近い、3.いくぶんか近い、4.どちらともいえない、5.いくぶんか遠い、6.かなり遠い、7.非常に遠い）で評定させた。ついで、類似度距離行列を統計ソフトHALWINを用いて、クラスター分析（ウォード法）した。これらのクラスターについて被検者のイメージを聴取し、録音した。録音した聴取データを文字

化し、JNS の感謝行動の PAC 分析を吟味し、最後に、クラスターの構造分析と被検者の聴取データを元に総合的解釈を行った。ついで、JNS の感謝の言語・非言語行動の特徴とその際の文化スキーマについて検討した。

感謝に値する場面で、言語または非言語を使って様々な形で感謝を示すと思われませんが、あなたは、感謝に値する場面で、日本人がコミュニケーションをするとき、同性同士、異性とのコミュニケーションで、また年齢や地位が同じまたは異なる（目上、目下の）相手とのコミュニケーションで、どのようなことが特徴としてイメージされますか。日本人のコミュニケーションでの性や地位の影響の特徴として思い浮かぶのはどのようなことでしょうか？頭に浮かんできたイメージや言葉を、思い浮かんだ順に番号をつけてカードに記入してください。

図1 JNS の感謝行動のイメージや特徴を把握するために使用した刺激文

<調査期間と調査場所>

調査は、2020年9月5日～同月の13日まで計3回、調査者の大学の研究室で行った。

5. 結果と考察

本節では、ウォード法によるデンドログラムをもとに、JNS の感謝の言語及び非言語行動についての被検者の連想反応と、クラスターについての被検者のイメージを記述し、それについての解釈を行う。その際に、被検者の発話を【 】, 非言語行動を〔 〕、調査者の発話を< >の中に示す。また、被検者の日本語の誤りをそのまま提示するが、意味理解に支障が生じる場合のみ、[]の中で修正を示す。被検者からの聴取中に、寄り添う姿勢や語りやすい雰囲気を作り出すために、調査者が頷きつつ「うん」のような相槌を打っていたが、ここでは紙面の関係で被検者の相槌とともに最低限の記載に留める。

5.1 JNS の感謝の言語・非言語行動についてのイメージ

感謝を表す場面で見られる JNS の言語・非言語行動についての被検者のデンドログラムは、図2のようになった。

<被検者のイメージ>

クラスター1:

(省略) 【70代のおばあさんがいるんですけど、その人も20歳の相手の人に対して】<うん>【尊敬語を使ったり、中村さんとかも言ったり、そうしているのがちょっと分からないです。】(省略) 【自分より若い人に、自分の子供の子供ぐらいの人に】〔笑〕【何でそんな「さん」とか、尊敬語、ます・ですとか使ってるのをちょっと分からないです。】【たぶん先に仕事に入ったかもしれないですけど、分からないですね、それにしてもちょっと】(中略) 【朝から夜まで仕

0

距離 4.48

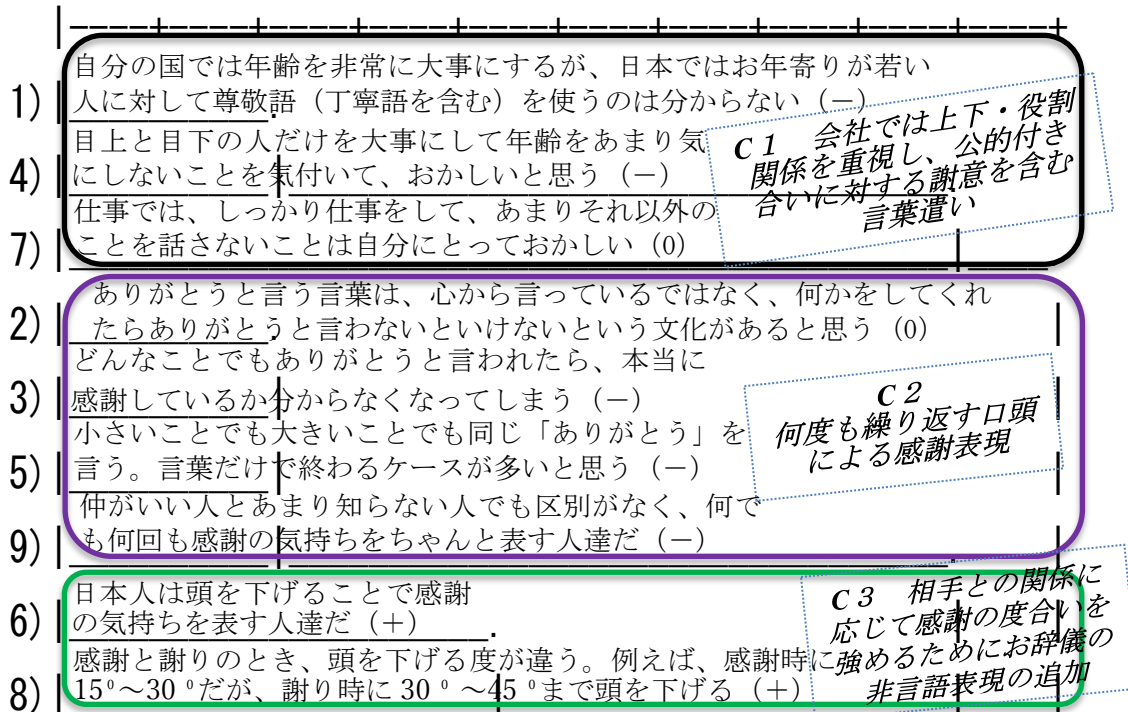


図2 JNSの感謝表現についてのデンドログラム

事するじゃないですか。その時は、（中略）しっかりすることは大事なことは大事なんですけど、ちょっとでも他のこと話したり、友達みたいな、仕事じゃない、必要がない話でも、話するのが、仕事が楽しくなるかなと思ってるから】（中略）【モンゴル人は、その、年齢を確認・尊敬するんですよ、年齢だけ、自分より上だったら上、年齢が一番】（中略）【年で上の人を尊敬する必要があります。必要というか、あの、文化的にはそう、その人達に】<なるほど>【で、年寄りのおばあさんとかおじいさんとかをそういうこと、尊敬語を使って、若い人に対して、そう話しているのを聞いたら、ちょっと、分からな一い。】『笑』【なんで一?と思う。】（中略）>【さんとかじゃなくて普通に、】【名前とかで大丈夫です。】【目上と目下をすごく大事にするんですけど、年齢はそんなに】（中略）【関係ない、みたいに感じたから、それはおかしいなと思って。】（中略）<じゃあこの3つはどんな意味で一つのセット、まとまりになっていると感じますか?>【それは、多分、仕事】【仕事、の場面じゃないかなと】<職場。>【職場関係?と年齢ですね。】<と年齢ですね。>【はい。】

クラスター2:

（省略）【何かしてもらったら、】【ちゃんとありがとうを、言いたいから言っているわけではなくて、言わなければいけないと思ってるから言ってる、】【感じが強く、】<感じる>【自分には感じる。】（中略）【そう感じた例…。小さいことはいつもこういう【ふうに】感じます【感じています】ね。小さいことで、

そんなありがとうという必要ないのに、言ってるから、】【ちょっと、他の点で見れば、そう言わないといけないと、子供〔の頃〕からずっと育てるとき、親とかで聞いているんじゃないかなと】（中略）【ありがとうって言ってとかゆうじゃないですか、こう、あの店で、スーパーとかで、あの、お菓子とか買ったら、】【どうぞーってゆったら、ありがとーってゆってーって、言わないとー？ってすぐ怒ったり、こう、】（中略）【自分レジしてる時、そうゆうんですよ。】【だからどんどんこう強くなって、大人になっても、この子供の】【ありがとって言わないといけないよって、でも子供ほんと喜んでないんですよ。】〔笑〕【分からないじゃないですか、この人〔が〕してくれてるかなとか、分からないのに、親は、ありがとうは？とかすぐ聞く〔言う〕んですよ。だから、こうなってるかなと思う。】【で、これは何回も言ったらほんとに感謝してるか分からなくなる。】【何でも言われたらおっきいことでも、ちっさいことでも言われたら、ちょっと分からなくなってしまう。】（中略）〔沈黙〕【ちっさいことでも、同じありがとうという言葉で終わるケースがある。ありがとうだけで終わる。】【後で、なんか、】【それでなんか忘れるというか】【そうじゃないかもしれないんですけど、あんまり、後で何かっていうか見てないから、分からないんですけど】【なんか、そのケース〔のようなこと〕がちょっと自分にはちょっと】＜多いような～＞【気がするんですね、はい。以上。】

クラスター3:

（省略）【感謝の気持ちでも、謝るの気持ちでも、】【〔日本には〕頭を下げる、そういう文化があると思います。】【尊敬しているから〔だ〕し、これはほんとに、謝りがあるから、それを表すときに、こー、この人に対して頭を下げることはすごい尊敬している形かな、】【体、体に、言葉じゃなくて体にしてる、すごい、その、言い方〔表し方〕かな。】＜うーん。体で表してるんですね。＞【はい、体でちゃんと表してる感じですね。】（中略）【他はー、ないですね。（中略）塊は、うーん。頭下げる文化ですね、うん。】

＜被検者によるクラスター1と2の比較＞

【で、この、目上、目下、年齢】【で、友達、】【あー、区別がなく、全部に、皆に、こう、ありがとうの】＜うん＞【いつも、言います。】【同じように言う。】【誰に対しても、ありがとうを何回も、区別なく言う。】（中略）＜1と2の似てる点ね。＞【はい。】【1は、んー、上司とか、年齢の上の人とかで、多分、ま、尊敬語とか使って、うーん、まあ、ひとマス下がる、そういう、言葉を入れて】＜うん＞【ってすると思うんですけど、2番は（そう）じゃなくて、んー、友達とか、普通の人に対しての】【ことと思います。】＜つまりその感謝の言葉を表す相手がちょっと違うってこと？＞【相手が違います。】＜うーん、2の方が親しい関係、友達関係が多い？＞【はい。1番は、また、職場としての】【尊敬語を使えないといけないという人達のグループに入ると思います。】〔沈黙〕＜他に何かありますか？＞〔沈黙〕【ないです。】

<被検者によるクラスター2と3の比較>

【2番では、そう、言わないといけないと、いけないから】【多分してる、ありがとうとか言ってるケースが多いと思うんですけど、3番は、自分からちゃんとしないといけないし、しないと、あれ、いけないとおも、何ていうんでしょう。したいからそういう、ちゃん、ちゃんとした、そういう礼とかかしてるってことです。】<うーん、ま、言い方変えると、2はあまり意識がないけど、>【はい。3は意識が強い。】<3の方で、自分から考えてやってる、>【考えて】<意識してやってる。>【意識して、しっかりやってる。】<そういう意味で違うってことですね。>【そうですね。2番は、ちょっと分からない、悪い意味だけど、3番はすごく、】(中略)【自分はいいいと思う。】<うーん。意識あり、なしって違うんですね。>【そうですね。意識、なしと、あり。】<違う点ですね。>【はい。】<似てる点がありますか？>【似てる点は、同じ、この感謝の気持ちは、】(中略)【どっちも、そうです。感謝を表す、】<使うんですね。>【はい。】<じゃあ、上は感謝のための言葉であって、下は感謝のための非言語ですよ。>【そうですね。あの一、】<それで考えると違う点ですよ。>【違う点。はい。2番[目のほう]は、言葉です。】【3番[目のほう]は、そう、非言語。言葉だけではなくて】【ま、こう、行動と言葉一緒に】【伝えていく。】<他はないですか？>【沈黙】<大丈夫？>【はい。】

<被検者によるクラスター1と3の比較>

(省略)【上司とか、目上の人にちゃんとこう、尊敬してる、尊敬を表すために、こう、頭を下げる、行動が、する、と思います。】<そこがちょっと違うってことですね。1の人達に対して3をやるって関係か。>【はい。同じ関係。】<うーん>【上の人とかで、(中略)上司とかとは。】(中略)【違う点？】【沈黙】【年齢が上の人には、こう頭下げたり】【しないことが多いですね。さっき言った、あの、若い人がもし若い人だったら、この年齢の上の人に対して、】<下げるね？下げない？>【下げないです。若い人が上司であればです。】【若い人が、ちょっとなんか、上の人っていうか、してれば、人間が関係なく、】<自分の立場を>【立場を、立場で表現してしまう。】【違う点、】【で、あの一、逆にこう、年上の年齢の上の人が、若い人に対して、頭を下げることもある。】<何かあるんですか？>(中略)【上司の人は30代の人で】【年齢の70代の人(お辞儀の動作)こうしてるし】【この、そのおばさんとかは、バイトの人だから】<え>【店長に対してしないとといけないから】【自分の子供みたいなんですけど】【笑】【ちゃんとこう、尊敬してることがありますね。】<(中略)年齢じゃなくて、そこで見てるのは立場の関係？>【立場関係で、】<ですね。>【はい。】<それ以上はないですか？>【それ以上は、ちょっと...はい。】

クラスターについての被検者の語りが終わってから、再度、次のような確認質問を行い、さらに被検者の考えを探っていった。

<例えば、どういうところで年齢は関係ないと感じたんですか？(省略)実際に。>【バイトとか、そんなこと何回も、あのおばあさんとかおじいさんとかたたくさ

んいるじゃないですか。】【たぶん、仕事してるんですけど、すごく遅くて、そういう人達ですね、でも、自分はすごく、こんな年齢にして、仕事してるのはすごく、めちゃくちゃ頑張ってる、おばあさん尊敬してるんですよ。こんな時代 [年齢] になって自分の、こう、仕事ができないから、多分できないと思ってるから、その人達は遅くても、その仕事してるこういう行動してるのはすごくいいなと思って、尊敬してるんですけど、日本人に対してはそれは当たり前みたいな、その年取ってる人 [とは] 関係なく、早くしてくださいとか、ずっとちょっと遅いとか、ちょっとと言ってるんですよ。】【遅いから、気を付けて〇〇、とかそういうんですよ。そしたらおばあさんとか、その人 (上司)、その人 (おばあさん) の時代 [年齢] の人になったら、その時は、何を】【笑】【そういうの [ときが] あるでしょってなるんですよ。その時は若い人がちょっと遅いから急いで急いでとか言ったら、それ時代、あの年齢だから、そんな急げるものではないと思っているから、それをちょっと分からないですね。】<結構、年を取った人達ですか?>【はい。70 過ぎとか 65 とか。】【〇〇 (店名) とかそこら辺ですね。荷出しとかも、自分は色々してあげてるんですけど、重いものとか全部】【あげたり、】【持ち上げたりしてるんです。でも、ちゃんと仕事はできてるから、遅くてもちゃんとできてるからすごいですね。】【沈黙】

<モンゴルって敬語あるんですか?>【敬語—はないんですけど、そんな敬語みたいなものじゃなくて、そんな尊敬してる人の話し方はちょっと違います。その、です・ますみたいなのはないです。】<話し方は違うというのは? (中略)>【友達と話すより、】【違いますね。やっぱり。】<ああ、声?音?その、年上の人に?>【年上の方は、】【何て言えばいいですかね。尊敬語とかはないんですけど】【尊敬してるんですね。】<それって言葉に現れる尊敬じゃないってことですか?それとも行動?>【言葉ではあります。】<ありますか?>【はい。】<ただ、日本語の敬語とは違う?>【はい。それほどないですね。敬語とか、そういう決まっているものはないんですけど、】【ちょっとだけある。<ちょっとだけ?>【はい。】 (中略)

<モンゴルでは、子供に感謝をしてとか言わないんですか?> (中略)【子供には、こう、ありがとうございますってください、ゆってねとか教えるんですよ。教える、でも多分、同じに [モンゴルでも] こうするんですけど、そんな強くないですね。】<うーん>【そうっすね。】【あと、[そうする] 場面がちょっと違う。】【店とかじゃなくて、他の、あの、親戚の人とか何かあげたら、ちょっと、ありがたいの気持ちを言うんですけど、職場とかぜーんぶ [の所で] じゃないんですよ。】【大事な人だけに、そう、あの、おじいさんとか、お金とかあげるん [くれるん] じゃないですか、家に尋ねて来たら】<そうですね。>【ちょっと、あの一、詩とか詠んで、歌ったりあげたりしたら、ああ、いい子ですねとか、そうして、そうしたら、ありがたいっていうんですね。】<ああ。その時は親も言わなかったら、言っただけで言うってことですか?>【はい。多分。】【でも、自分から言うかな。】【すごく喜んでるから、自分が】<ああ、自分が、ほんとに嬉しいから、>【ほんとに嬉しいからですね。】<レジの前で親が、ありがたい言いなさいみたいな、>【そうですね。】<なるほどね。> (中略)

<日本の感謝は、言葉で終わるってことですかね？>【はい。】<じゃあ、望ましいのは、〇〇さんとしてはどういう形ですか？言葉で終わるんじゃなくてだったら、どういう？>【行動【笑】行動。】<ああ、つまりさっきゆってたみたいに、笑顔で見るとか？>【はい。覚えておくとか。】（中略）<何にでも何度でも感謝の気持ちを言葉で表すのは日本人だって？>【はい。】<うーん。つまりこれの逆、モンゴル人は区別するってことですか？>【沈黙】【そうですね。区別しますね。】<その区別によって何がどう違うんですか？>（中略）【知らない人と、仲いい人の、人に対して、ありがとう言う、あの一、返事がちょっと違うかな。返事というか、知らない人に対しては、言葉で終わると思うんですけど、仲いい人達には、】【他の行動とか】【そういうことの何かしてあげるとか】【そういうことにつながるかなと。】<（中略）他にイメージすること、考えることってあるんですか？>【うーん】【沈黙】【ないです。】（中略）<セット2なんですけど、>【はい。】【沈黙】【ありがと、と言わないきゃいけない文化かな。】<言葉で言わないといけないね。>【ああ、そうです。はい。】<モンゴル人はお辞儀、しない？>【モンゴルはないです。全然【頭を下げる動作】こうしない特に。】<謝るときにもしない。どっちにもない？>【ないです。】【ちょこっと【軽いお辞儀の動作】こうするもないです。】【で自分モンゴル行ったら、言われるんですよ。】【笑】【【お辞儀の動作】こうしたら、何で？とか。怒られるんですよ。】（中略）<何でしないのかな～>【弱く見える。】（中略）弱くなるわけではないし、ちゃんと尊敬することができてから、自分がすごくいい人になるんですよ。仲いい人にこうしてあげたら、自分から何も損とかしないんだから、するし、してあげるとは、してあげたほうがいい。モンゴル人はちょっと考え方が、ちょっと】<違う？>【違ったり、こうして【ピシッとした動作】したらよく見えるから、それを絶対しないと、】（中略）<今の〇〇さんはそう思ってるってことね。>（中略）【そうです。日本に来てから、学んで、そうです。】【すごい文化だと思っているからですね、】【モンゴルにはないから】【謝るとその文化（中略）はい。いいと思っています。】

5.2 JNSの言語・非言語行動及び文化スキーマについての解釈

被検者が語ったJNSの感謝表現に関係する文化的なスキーマの特徴として次の点があげられる。一つ目は、JNSの職場では、「目上と目下をすごく大事にするんですけど、年齢はそんなに」関係のない要因とし、「仕事じゃない、必要がない」いわゆる「友達みたいな」プライベートな話をしないということである。従って、「年寄りのおばあさんとかおじいさん」の従業員が自分より立場的に上の「若い人に対して、敬語を使って」話すことが考えられる。後者については、被検者が、丁寧語と尊敬語の区別が理解できていないことが影響していると考えられよう。

一方でJNSは、「おっきいことでも、ちっさいことでも」、また「目上、目下、年齢」そして、「仲がいい人とあまり知らない人」のような人間関係の要因とも「区別がなく、全部に、皆に」対し、「ありがとうございます」と感謝の言語表現を伝えていることから、感謝行為の大きさ、感謝の送り手と受け手の人間関係

などの要因と関係なく、「何回も感謝 [の] 気持ちを」伝えるのは JNS 的な特徴だと言えよう。このことについて、シンハラ語母語話者と JNS の感謝表現を比較するランブクピティヤ (2014, 2017) でも指摘されているのと同様である。

さらに、飴をくれたレジの従業員に対し、子供から感謝の言葉を言わせようとする親を例に、JNS が「ありがとうを、言いたいから言っているわけではなくて、言わなければいけないと思ってるから言ってる」と述べている被検者の発話から、この場面では、謝意よりも社交辞令的な感謝表現の教育に言及していると考えられる。感謝の言語表現には、お礼の応答だけではなく、相手に自分を良く見せ、自分の面子を保つという社交辞令的な機能もあるとされている (ランブクピティヤ・内藤 2018)。また、JNS はお辞儀をすると一般的によく言われているが、本調査の結果からも、そのことが示され、お辞儀には、謝意と謝罪という両方の意味があり、角度を変えることによって、その強弱の度合いを変えていると言える。

従って、デンドログラムのクラスター1を「会社では上下・役割関係を重視し、公的付き合いに対する謝意を含む言葉遣い」、クラスター2を「何度も繰り返す口頭による感謝表現」、クラスター3を「相手との関係に応じて感謝の度合いを強めるためにお辞儀の非言語表現の追加」と命名できよう。

5.3 JNS の感謝の行動と文化スキーマと異文化理解や多文化共生への提言

本調査結果から、JNS が職場という公的な場では、相手の立場や身分という文化的要因を考慮し、感謝の言語表現を多用していることが確認された。逆の視点から見れば、モンゴルでは職場などの公的な場に私的な関係が持ち込まれるのではないかとの推論が成り立つ。話者が目を向ける場面についてのこれらの要因を語用論的要因と言い、その知識を語用論的知識と言う。根本 (2012) では、文化が反映された形で社会についての実体験や学習機会を提供せず、語学学習のみを行うと、学習者の言語学習も社会適応もうまくいかない指摘されている。従って、日本で就職を希望する日本語学習者も多くいることから、日本の職場における異文化理解や多文化共生の実現に向けて、これらの語用論的教育に力を入れ、コミュニケーションについての体験活動などを提供する必要があると容易に理解できよう。

6. 終わりに

本調査では、PAC 分析を用いて、JNS が持っている感謝の言語・非言語行動とその際の文化スキーマの特徴を探索した。しかし、本調査では、大学生のモンゴル語母語話者 1 名しか対象としておらず、さらに JNS の感謝表現についての 9 項目というわずかな連想項目しか得ていない。イメージ報告や解釈の段階で、さらに情報が追加的に連想されたものを追加しても、限界があろう。本研究での結論は全ての JNS に共通するとは言い難いであろう。しかし、操作的かつ客観的なデータを収集し、臨場的な被検者の語りを理解していくことを通じて、いくつもの知見が得られており、JNS における感謝表現での異文化コミュニケーションの改善に役立つような提言もできた。今後は、被検者を増やし、他の母語話者に対する調査を続けたい。

謝辞

本論文の作成にご助言をくださった内藤哲雄先生に心から感謝をいたす。また、本研究は日本学術振興会の科学研究費補助金（若手研究 20K13096）の支援で実施したこともここに記す。

参考文献

- 岡本伸一郎（1991）「感謝表現の使い分けに関与する要因」『人間文化：愛知学院大学人間文化研究所紀要』第6号,35-44
- 佐久間（1983）「感謝と詫び」『話しことばの表現講座日本語の表現 3』水谷修編,54-66 筑摩書房
- スイリラット・サンタヨーパス（2011）「感謝の場面での謝罪の発話—日本語母語話者とタイ語母語話者の意識と使い分け—」『一橋大学国際教育センター紀要』第2号,37-55
- 周乗風（2017）「ビジネス会話に置ける感謝表現の対照研究—日中経済小説を中心に—」『国学院大学大学院紀要：文学研究科』第49号,81-110
- 内藤哲雄（1993）『PAC分析実施法入門』ナカニシヤ出版
- 根本浩行（2012）「第二言語習得研究における社会文化的アプローチ」『言語文化論叢』第16号,19-38 金沢大学外国語教育研究センター
- 秦秀美（2002）「日・韓における感謝の言語表現ストラテジーの一考察」『日本語教育』第114号,70-79
- 三宅和子（1993）「感謝の意味で使われる詫び表現の選択メカニズム—Coulmas(1981)の indebtedness『借り』の概念からの社会言語学的展開—」『筑波大学留学生センター日本語教育論集』第8号,19-38
- ランブクピティヤ, S.M.D.T.（2014）「日本語母語話者とシンハラ語母語話者の感謝場面における『人間関係』についての理解と感謝表現—ロールプレイを中心に—」『日本語教育』第158号,112-130
- ランブクピティヤ, S.M.D.T.（2017）「日本語母語話者とシンハラ語母語話者の感謝場面における『当然性』についての理解及び感謝表現ストラテジー」『言語文化学会論集』第49号,105-123
- ランブクピティヤ, S.M.D.T.・内藤哲雄（2018）「日本語母語話者とスリランカ人シンハラ語母語話者の『感謝の表し方』についての PAC 分析」『久留米大学外国語教育研究所紀要』第27号,63-77